MEDIA RELEASE

2023 年 9 月 11 日

「Team Noah GR Supra GT4」
もてぎ戦リタイアも大きな収穫あり

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023 supported by BRIDGESTONE(S 耐)に年間エントリーする「Team Noah GR Supra GT4」は、9 月 2～3 日に モビリティリゾートもてぎ(栃木県)で開催されたシリーズ第 5 戦「もてぎ スーパー耐久レース 5Hours Race」の ST-Z クラスに参戦。レース序盤にコースオフを喫し結果的にはリタイアとなったが、メカニックたちが緊急作業での経験を積み、また改良すべき点の発見やセッティングの煮詰めなど、今後のレースに向けての大きな収穫を得ることができた。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表：清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！“を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で、ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。今季はマシンを GT4 規定の GR Supra GT4 EVO へ替え、クラスも毎戦 10 台近くがエントリーする激戦区の ST-Z クラスへステップアップ。今回は芳賀邦行、蘇武喜和、岡原達也、そして清瀧の計 4 名で 5 時間レースに臨んだ。

今回の 5 時間レースに出走した車両は、ST-5 クラスを除く 8 クラス 45 台。ST-Z クラスは、GR スープラ、新型 Z、ポルシェ・ケイマン、アウディ R8、メルセデス AMG と国内外の GT4 マシン 5 車種計 10 台と相変わらずの激戦区となった。

予選前日の 1 日に行われた専有走行では、午前と午後の 2 セッションで 4 人全員が 37 周を走り込んだ。迎えた 2 日も厳しい残暑となり、午後の公式予選は A(芳賀)、B(蘇武)ドライバー2 名のベストタイム合算で、総合 18 位、クラス 8 位。また岡原、清瀧も難なく基準タイムをクリアした。予選終了後にブレーキのトラブルが解消。決勝に向け明るいニュースとなった。

3 日も朝から気温が上がり、決勝前のウォームアップ走行では、ブレーキの状態を確認。気温 33℃、路面温度 42℃というコンディションの 11 時 14 分にレースがスタートした。今回は芳賀→蘇武→岡原→清瀧の順でゴールを目指す予定。オープニングラップで芳賀は慎重に走ったこともあり順位を下げたが、その後は他クラスの車両をかわし総合順位を上げていた。スタートから 50 分を経過しようとした 25 周目の S 字 2 個目で脱輪からの単独スピンでクラッシュを喫し、緊急ピットインしガレージへ入れた。

車両は左側が傷んでおり足回りにまでダメージがある状態だったが、メカニックが囲み修復作業を開始。作業は 3 時間近くかかったが、蘇武が確認のためにコースインし 3 周した。そしてレース終盤にはゴールのチェッカーを受けるために岡原がコースイン。しかしクラッシュのダメージからか、走行中にシステムがダウン。走行は難しいと 31 周目にピットインして、残念ながらそのままレースを終えることになった。結果は伴わなかったが、ブレーキのトラブルもクリアになり、その他にも改良点が見えて来た。またメカニックも緊急の作業に対応し経験を積んだ。今回のレースの経験を今後に生かし、チームのレベルアップを図っていく。

次の第 6 戦は 10 月 21～22 日に岡山国際サーキット(岡山県)において、3 時間レースとして開催予定。

芳賀邦行「クルマのアンダーステアが強かったのでそれを殺しながら走っていたのですが、後ろから(上位クラスの車両が)来るのが分かっていたので、そこに集中し過ぎて判断ミスをしてしまいました。今回は周りの皆さんに迷惑をかけてしまったので、速いクルマに慣れ自分自身もスキルアップしていかないといけないと感じました。来年また乗るチャンスがあれば役目を果たしたいです」

蘇武喜和「今回はこれまでずっと抱えていたブレーキの問題が解決したことが大きな収穫だったと思います。ただそれに合わせたセッティングが満足にできず、芳賀さんには乗りづらいクルマに乗ってもらわないといけなくて、そこは申し訳なかったです。次はクルマも速くなるし一歩ずつ確実に前へ進んでいけているので、来年に向けても残り 2 戦はもっと上を目指していこうと思います」

岡原達也「チェッカーを受けようとコースインしたのですが、システムダウンのトラブルが起きスピンしたのでピットインしました。これまで ST-5 クラスしか経験がなく、上のクラスはやはり難しいです。ST-2～3 クラスとの間合いが分からないまま終わったという感じなのでもう少しレースで経験を積みたかったのですが、これもレースでしょう。次にチャンスがあれば頑張りたいです」

清瀧雄二「今回はこれまでずっと抱えていたブレーキの問題が解決し、クルマが正規な状態になりようやくスタート地点に立てたということで大きな収穫になりました。レースはいろいろありますから、トラブルやアクシデントはどうしても起こってしまいます。次の岡山では今回の最後のトラブルも解消して上位を目指せるように臨みたいと思っています」